

—町の資源を発掘し「自立する元気な豊浦町」の実現を目指します—

1 計画策定の趣旨

豊浦町は、平成10年度(1998年)から平成19年度(2007年)までの10間を目標として「第4次豊浦町総合計画」を策定し、これに沿って様々な施策や事業を展開してきました。

しかし、この間、町をとりまく社会経済情勢は大きく変化してきています。国と地方の行財政改革、平成の市町村大合併、地方公共団体の財政ひっ迫、地球規模で考えなければならない世界の人口増加、エネルギー資源の枯渇と温暖化対策、そしてわが国固有の問題である人口減少と少子高齢化時代への突入などです。その中で日本の食料自給率を上げていくことが叫ばれています。しかし食料を含む貿易環境については、WTO(世界貿易機関)農業交渉がわが国に一層厳しいものとなっている中、日豪EPA(経済連携協定)交渉では本道の主要農畜産物が多く競合し、万が一関税が撤廃されることになれば、本道農業に壊滅的な打撃を与えることは明白であり、予断を許さない状況にあります。

豊浦町は、農業と漁業というまさに食づくりを基幹産業とする町です。そして町が21世紀を力強く生きていくための最大の課題が、これから誰が農業と漁業を支えていくかという担い手の確保です。

平成20年度(2008年)からスタートする「第5次豊浦町総合計画」は、この1点に的を絞って策定したと言っても過言ではありません。答えは農業や漁業がさらに栄え、他の産業とも関連し、生きがいがあり力強い産業として発展していくことです。そのためにも内浦湾にあって、穏やかな気候と恵まれた自然環境を最大限に活かしながら、新しい発想を持って「**人づくり**」、「**産業づくり**」、「**環境づくり**」に取り組み、そして「**協働**」というみんなの力で「**自立する元気な豊浦町まちづくり**」を推し進め、子供たちが夢を持ち、お年寄りも元気に生活が送れる取り組みを進めます。

本計画が施行される平成20年度(2008年)には、主要8カ国の首脳が北海道の洞爺湖に集い、サミットが開催されます。そのホスト町の1つが豊浦です。世界中から集るプレスの方々に、内浦湾のホタテや、イチゴ、SPF豚^{*}などの大地の恵みは、きっと記憶に残るものになるでしょう。この自然の恵みと先人達の努力を、豊浦町の確かな未来として、次の時代を担う子どもたちにしっかりと引き継いでいかなければなりません。本計画はこのような理念のもとに策定しました。

また本計画は、将来を展望した町の目指す姿と町政全般を視野に入れた政策展開などを示すものであり、保健・医療・福祉、教育、道路整備などの個別事業の推進計画については、本総合計画を指針として、達成すべき目標や関係する主体の役割分担を明らかにするよう努めるとともに、推進に当たっては、多様な主体との協働や町民の活力を生かす取り組みの促進に努めます。

なお、「第5次豊浦町総合計画」は、昭和43年(1968年)に制定した、豊浦町総合計画策定審議会条例に基づき策定しています。

[用語解説] **SPF豚**：(SpecificPathogenFree)日本SPF豚協会が農場設備・衛生管理・豚群の健康状態において、要件を満たしていると認定した農場において、衛生的に高いレベルで飼養し、豚特有の疾病が現れないように生産された豚のこと。

2 計画策定の視点

本計画は、次のような視点で策定しています。

- (1) これからの時代をしっかりと見据えるために、7つの視点から町の将来を展望しています。
- (2) 「人があって、産業があって、環境があって、町が作られる」という原点に立ち、町の課題と基本的な取り組みを掲げています。
- (3) 「活力再編計画」、「産業振興計画」、「暮らしと環境の整備計画」という3つのテーマに分けて、基本計画を策定しています。
- (4) 基本計画をもとに、明日の町を切り拓いていく戦略として、3つの「挑戦プロジェクト」を位置づけています。

3 計画の期間

「第5次豊浦町総合計画」は、平成20年度をスタート年とし、10年後の平成29年度を目標としています。また「挑戦プロジェクト」は概ね5年後を目処に「地域再生計画」等として取りまとめ、国の制度（地域再生計画）などを活用しながら、町民、行政、民間と連携しながらプロジェクト事業を取り組んでいきます。

4 計画の全体像

